

小島よしお



自分が本気で楽しめば、子どもも必ず楽しんでくれる

Y O S H I O

K O J I M A

お笑い芸人

先生が面白いと 授業も面白いと思える

小中高を通して、とにかく目立ちたがり屋でした。授業中に手を挙げて発言するのはもちろんのこと、学級委員長や生徒会長、応援団長まで率先して引き受けるタイプ。おしゃべりを注意されるのは毎度のことで、通知表には決まって「落ち着きがない」と書かれていました。勉強のほうは、小学生のときは算数と国語が得意で、中学生になると社会が好きになり、高校生になったらすべての教科が苦手になりました(笑)。ただ、先生が面白いと「授業も面白い」って思えるんですね。そういう意味で印象に残っているのが小学校5、6年の担任だった沼倉先生。普段はとても優しく、でも目に余るふざけ方をしているとピシッと叱る先生なのですが、年に1〜2回、月光仮面になりきって全力で踊ってくれるんです。これにはクラス全員が大爆笑。その普段の姿とのギャップが、子ども心ながらに衝撃的で、大好きな先生だったし、その先生の授業はいつも楽しかったことをよく覚えています。

心の方が言葉になった 「そんなの関係ねえ！」

大学に進学してからも目立ちたがり屋の性分は変わらず、入学と同時に笑いサークルに入りました。「そんなの関係ねえ！」でブレイクしたのは27歳のときだったのですが、その直前くらいが経済的にも精神的にも一番苦しい時期でしたね。大学時代の同級生たちは社会人になり経済的に自立できているのに、僕だけがバイトをしながらの貧乏生活のままで、情けない気持ちになることが度々ありました。それでも、お笑い芸人になる夢を追い続けることができたのは、芸人の先輩たちがいてくれたからです。知名度など無いに等しい僕の芸を見て、先輩たちが腹を抱えて笑ってくれていたおかげで、僕は芸人気取りでいられました。実は「そんなの関係ねえ！」のフレーズが生まれたのも、ある先輩のおかげなんです。趣味でDJをしている先輩の手伝いでクラブに行ったところ、その先輩がレコードを回しながら僕に「おまえが盛り上げる！」と言って、突然マイクを渡してきたんです。ひどい無茶ぶりに(すべったらどうしよう…)と思いましたが、(そんなの関係ねえ!)という気持ちになり、それがそのまま言葉になりました。売れてないし、仕事もない。「で



も、そんなの関係ねえ！」って言いながら、拳を地面に振り下ろしたら、フロアが一瞬で沸いたんです。僕の代表ギャグはこうして誕生しました。

コロナ禍で開設した 『おっぱっぴー小学校』

2011年からは、子ども向けのお笑いライブを中心に活動しています。年間で100本以上のライブをさせていただいてきたのですが、新型コロナの影響ですべて中止。そんなとき、知り合いの放送作家さんに「教育学部卒なんだし、子ども向けのオンライン授業でもやってみたら？」と提案され、『おっぱっぴー小学校』というYouTubeチャンネルを開設しました。コンセプトは、勉強が嫌いにならないような授業をすること。ちょっと話は逸れますが、野菜嫌いな子どもって、実は野菜を食べる前から「野菜は苦手」と思っていることが多いんですね。以前、あるテレビ番組で、ピーマンが嫌いな子どもたちの前で、ピーマンの帽子をかぶり、ピーマンの歌をノリノリの振り付けで歌って見せたら、みんな大笑いして、ピーマンを食べられるようになりました。それを目の当たりにしたときに「勉強でも同じことが起きているのでは？」と思ったんです。まだ何も教わっていない入り口のところ「勉強はつまらない」と思いこんでいるのだとしたら、入り口で笑わせて、授業そのものも笑いながら学べるようにしよう、そんな思いで『おっぱっぴー小学校』を運営しています。

子どもと向き合うときに 僕が大切にしていること

子どもたちに「勉強は楽しい」と思ってもらうために、僕が大切にしていることは大きく3つ。1つ目は、自分自身が教えることを心から楽しむこと。子どもは、こちらのテンションを敏感に察知するので、授業の冒頭から終わりまでノリノリのテンションを維持するようにしています。2つ目は、覚えてほしい内容を印象付ける工夫をすること。例えば、円周の説明をするときに、僕はフラフープを使って「見える化」し、説明の途中で子どもが笑いそう



「ピーマンのうた」以外にも『ごぼうのうた』や『コメヲカラ』というお米の歌もあります。野菜の歌を通して、子どもたちが野菜が好きになるだけでなく、農作物が育つ過程や農業にも興味を持ってくれるとうれしいですね(小島さん談)

なネタも織り交ぜるようにしています。「見える化」と「笑い」のセットは、子どもに強烈な印象として残るからです。3つ目は頭ごなしに否定をしないこと。たとえ子どもから出た回答が明らかな間違いであっても、「面白いこと言うね!」とか「いいじゃん!」といった言葉で、一度きちんと受け止めるようにしています。自己肯定感を持たせてあげることで、子どもはいろんなことに興味を持つようになるので、これはとても大事なことだと思っています。

『おっぱっぴー小学校』の放課後のな位置付けで『ピーヤの休日』というチャンネルも開設しました。こちらは「真面目に遊ぶ」をコンセプトにしています。まだ本数は少ないのですが、リズムに合わせて体を動かしたり、スライムをつくるなど、視聴者と一緒に遊べる内容になっています。いずれのチャンネルも検索をかけていただければ無料でご覧いただけるので、宜しくお願いします!

小島よしお(こじま・よしお)

1980年生まれ、沖縄県出身。早稲田大学教育学部卒業。大学在学中はお笑いサークル「WAGE」に在籍し、後に5人組のコントグループ「WAGE」としてお笑いの道へ。卒業後、ピン芸人として活動を開始。2007年に「そんなの関係ねえ!」が大ブレイクし、その年の流行語大賞にノミネートされる。2011年からは子ども向けのお笑いライブを中心に活動し、子どもたちの人気者に。2020年4月にYouTube上に開設した『おっぱっぴー小学校』では、小学生を対象に笑いを交えた算数の授業を展開し、人気を博している。近著にYouTubeで100万回再生された時計の読み方をドリルにした『小島よしおのとけいドリル』(ワニブックス)がある。



🎀 クイズ(P30)正解者の中から
抽選で1名様に、小島よしおさんオススメの
海苔とナッツの濃厚おつまみ BARATZ(バラッツ)
5種詰め合わせをプレゼントします。
ふるってご応募ください!

わたしの心にある風景



【久米島沖の「はての浜」】

育ったのは千葉県なのですが、生まれは沖縄県の久米島なんです。久米島には、母が今も住んでいるので、基本的に毎年1〜2回は里帰りをしています。だから、僕にとっては「久米島の風景=母」のイメージ。この写真は、数年前、母と一緒に久米島沖にある「はての浜」へ行ったときに撮ったものです。母は、どんなときも前向きで、いくつになっても新しいことに挑戦する人なので、僕も見習いたいと思っています。母に会うと必ず「あなたの芸はまだだ。謙虚な気持ちと感謝の気持ちを忘れずに」と言われます。確か、このときもダメ出しをされた気がします(笑)。